

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	石川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械工学科	夜・通信	0	0	7	7	7	
	電気工学科	夜・通信			8	8	7	
	電子情報工学科	夜・通信			12	12	7	
	環境都市工学科	夜・通信			30	30	7	
	建築学科	夜・通信			19	19	7	
	電子機械工学専攻	夜・通信	9	0	2	11	7	
	環境建設工学専攻	夜・通信			12	21	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=18">https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=18</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	石川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 <a href="https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	石川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月の教務委員会において、次年度 Web シラバス（入稿手順の確認、MCC、情報、セキュリティ対応）の担当者を決定し、作成内容及び作業日程を確認している。</li> <li>・12月に教務主事から全教員宛に次年度 Web シラバスの原稿作成を1月末までに完了するよう通知するとともに教員会議において全教員へシラバス作成要領を説明している。</li> <li>・2月に教務委員会委員、JABEE 委員会委員及び点検評価委員会委員が各教員の作成したシラバス原稿の内容（授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、実務との関係、学修単位科目の記述内容等）を点検し、教務委員会で結果を報告のうえ必要な修正を実施している。</li> <li>・4月1日に Web 上でシラバスを公開している。</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=18">https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=18</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>1 機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、環境都市工学科及び建築学科</p> <p>(1) 成績評価・単位認定規程および進級・卒業認定規程</p> <p>試験の実施方法、成績評価・単位認定に関わる規程は、学生便覧に記載されている。成績評価方法はシラバスに定期試験や課題レポート等の配分を明記している。試験結果については、各定期試験後に必ず試験答案の返却と解説を実施し、試験結果についての学生からの異議申立ての機会を設けている。進級・卒業の認定基準等については「学業成績評価及び進級・卒業認定に関する規程」において明確に定められている。同規程第14条にあるように3科目以内の未修得科目を有する者も進級可能であるが、同規程5条に定める単位追認試験に合格しなければならない。</p> <p>(2) 学生への周知</p> <p>成績評価表ならびに進級・卒業については、学生便覧の学習心得の中の「成績評価について」および「進級・卒業について」の節に記載されている。新入生に対しては入学式翌日に行われる新入生オリエンテーションの中で教務関係として説明している。また各教科の担当教員は、最初の授業において当該科目の評価方法等について説明し、成績評価方法の学生への周知を図っている。</p> <p>平成29年度(2017)からは、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーのいわゆる3つの方針を、ホームページならびに学校要覧に掲載している。</p>	

(3) 規定に従った成績評価・単位の認定・進級認定・卒業認定の実施

各教員は規程とシラバスに明示した評価方法に沿って成績を付け、単位の認定を行っている。進級および卒業の認定は、全教員が出席する進級判定会議および卒業判定会議において審議されている。

2 専攻科

(1) 成績評価・単位・修了の認定と学生への周知

学則において授業方法、成績評価法、専攻科修了基準等が規定されている。定められた規則は「学生便覧」に明記され、年度初めのガイダンスにおいて「専攻科履修の手引き」を配付し、成績評価方法および単位認定、修了認定の基準、授業形態と1単位の学習時間数における注意等を詳細に説明している。各科目の成績評価方法は、全ての科目においてシラバスに示している。また、在学生アンケートなどで、学生への周知度や、科目担当教員からシラバスの説明が十分なされているかについて確認を行っている。

講義科目に関しては、試験終了後に試験返却や復習が行われており、その際に採点の間違いや評価に対する学生の異議申し立ての機会が設けられている。

(2) 規定に従った成績評価・単位の認定・修了認定の実施

各科目における成績評価は、シラバスに記載した成績評価方法に従っている。成績報告の際には、各教員の報告ミスがないように、教務係が成績の入力方法を毎回通知している。報告された成績は教務係での集計の後、全教員による年度末の卒業・修了判定会議において修了認定をしている。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

1 機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、環境都市工学科及び建築学科

(1) 学業成績の評価

学業成績の評価は、予め明示された評価方法に基づき100点法により行う。

学業成績の評価は、次の算式による年間欠課時数が年間授業時数の4分の1を超えていない科目についてのみ行う。

$$\text{年間欠課時数} = A \times 3/4 + B$$

A：病気事故による長期欠席（通院を含めて3週間以上の療養を要する診断書が提出された者）、その他やむを得ない事由によると認められた欠課時数

B：Aの場合以外の欠課時数

(2) 学業成績の評語

学業成績の評語は、S、A、B、C及び不可とする。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがある。その区分は次表のとおりとする。

第4学年から第5学年までの開講科目

評語	評 価
S	90点以上
A	80点以上 90点未満
B	70点以上 80点未満
C	60点以上 70点未満
不可	60点未満
合格 認定	60点以上

(3) 成績評価

学生便覧に記載のとおり各科目の成績は、シラバス（授業目標、年間スケジュール、成績評価方法等を詳細に示した授業計画）に基づき、総合的に評価し、100点法により評価を行う。個人成績の学級内順位は、全科目の平均によって決定する。

2 専攻科

(1) 学業成績の評価

学業成績の評価は、予め明示された評価方法に基づき 100 点法により行う。

学業成績の評価は、次の算式による欠課時数が授業時数の 4 分の 1 を超えていない科目についてのみ行う。

$$\text{欠課時数} = A \times 3 / 4 + B$$

A：病気事故による長期欠席（通院を含めて 3 週間以上の療養を要する診断書が提出された者）、その他やむを得ない事由によると認められた欠課時数

B：A の場合以外の欠課時数

(2) 学業成績の評語

学業成績の評語は、S、A、B、C 及び不可とする。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがある。その区分は、次表のとおりとする。

評語	評 価
S	90 点以上
A	80 点以上 90 点未満
B	70 点以上 80 点未満
C	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満
合格 認定	60 点以上

(3) 成績評価

学生の各専攻内での成績順位は、次の換算式を用いたグレードポイントアベレージ (GPA) により決定する。

科目毎の成績評価をそれぞれ S=4、A=3、B=2、C=1、不可=0 としてグレードポイント (GP) に置き換え、GPA を以下のように定める。

$$GPA = \frac{\sum_i GP_i \times N_i}{\sum_i N_i}$$

$GP_i$  : S・A・B・C・不可の評語で表す科目の科目毎の GP

$N_i$  : S・A・B・C・不可の評語で表す科目の科目毎の単位数

なお、欠課時数が単位認定の基準を超える科目は GP を 0 として上記の式に含める。また、成績評価が合格又は認定の評語の科目は上記の式に含めない。

客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/CbqeaQVAA">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/CbqeaQVAA</a> <a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/Ctt_kwVAA">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/Ctt_kwVAA</a> <a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/CXUDQgVAA">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/CXUDQgVAA</a>	
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。		
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)		
1 機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、環境都市工学科及び建築学科卒業の基準		
(1) 各科目の年間授業時間数の4分の3以上出席していること。		
<p>なお、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和される。</p>		
(2) 最終学年までの修得すべき科目の単位を修得していること。		
(3) 卒業研究の評価が合格であること。		
(4) 学校行事への出席が良好であること。		
上記のすべての条件を満たしていれば、卒業することができる。		
ただし、上記の(2)に掲げる条件を満たさない学生であっても、次に掲げる条件を全て満たせば、単位追認試験を受験することができ、これに合格したときに卒業が認められることがある。		
①学業成績において30点未満の科目がないこと。		
②累積未修得科目が3科目以内であること。		
2 専攻科		
(1) 専攻科修了要件		
<p>各授業科目は単位制で、専攻科修了には2年以上在学し（在学年数は4年を限度とする。）、各専攻開設のすべての必修科目及び所定の選択科目の単位数を含め、下表のように62単位以上を修得する必要がある。</p>		
さらに、申告した創造工学プログラムのコースの修了に必要な要件を満たすように、単位を修得することも必要である。		
<p>なお、1年次の修得単位数が30単位に満たない学生でも2年次となり、当該年次配当科目を履修できるが、2年次配当の創造工学演習Ⅱの履修はできないので、当該年度の修了見込みとはならない。</p>		
<p>また、創造工学プログラム複合工学修得コースにおいて、1年次に創造工学プログラムの学習・教育目標C(2)の総合的評価（総合英語力到達度試験に合格すること。ただし、TOEIC400点相当、英検2級、技術英検2級取得のいずれかをもって代えることができる。）を満たさない場合も、2年次配当の創造工学演習Ⅱを履修できない。</p>		
科目区分	要修得単位数	備 考
一般科目	10 単位以上	必修 10 単位
専門共通科目	17 単位以上	必修 15 単位
専門展開科目	35 単位以上	必修 31 単位
合 計	62 単位以上	(うち1年次に30 単位以上)
(2) 学会等外部発表		
<p>専攻科を修了するには、学会等の外部発表が必要である。なお、特別研究Ⅱの発表会は本校の技術振興交流会企業等へ公開しており、そこでの発表も外部発表とみなす。</p>		
(3) 創造工学プログラム ( <a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/jabee/program.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/jabee/program.html</a> 参照)		
<p>創造工学プログラムを修了するには、所定の単位を修得しコース別達成度評価項目を満足しなければならない。複合工学修得コースにおいては、総合英語力到達度試験の合格（TOEIC400点相当、実用英語技能検定2級、技術英語能力検定2級の取得のいずれかをもって代えることが可能）や研究に関して外部発表を行う必要がある。</p>		

卒業の認定に関する 方針の公表方法	<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html</a> <a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan04.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan04.html</a> <a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/CbqeaQVAA">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/CbqeaQVAA</a> <a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/CXUDQgVAA">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/uploads/media/CXUDQgVAA</a>
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	石川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf</a>
財産目録	
事業報告書	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: <a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf</a>
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: <a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf</a>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/materials.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/materials.html</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:
-------



(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html</a>)</p> <p>(概要)</p> <p>教育理念・目標 基本理念 人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関</p> <p>教育理念 (1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育 (2) 創造的な能力と意欲を育む教育 (3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育 (4) 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育</p> <p>養成すべき人材像 (1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者 (2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者 (3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者 (4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者 (5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者 (6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者 (7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者 (8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者 (9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者 (10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者</p> <p>【本科（準学士課程）の学習目標】 (1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。 (2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。 (3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。 (4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。</p> <p>・機械工学科 材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html</a>)</p> <p>(概要)</p> <p>本科のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針） 1 本校の目的 本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的としています。</p>

<p>2 学習目標</p> <p>(1) 全学科共通の学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。</li> <li>・意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。</li> <li>・幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。</li> <li>・自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。</li> </ul> <p>(2) 各学科の学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工学科 材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。</li> </ul> <p>3 教育の特色</p> <p>機械工学科</p> <p>機械工学科では、機械の動作原理や材料・構造・強さ・しくみを座学・実験・実習を通し、深く理解できるようカリキュラムが設定されています。さらに、修得した知識や技術を活用して、独創的なアイデアを発想し、設計・製作・評価までを自ら行うことのできる技術者を育てています。</p> <p>4 本科の卒業要件</p> <p>卒業の判定については、学則第 35 条(※)で定めるとおり全学年の課程を修了した者を卒業と認めますが、具体的には、以下のすべての要件を満たしていることが条件となります。</p> <p>なお、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるようにカリキュラムを編成していますので、卒業認定を以て本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科の学習目標を十分達成したと認めることができます。</p> <p>卒業要件</p> <p>(1) 各科目の年間授業時間数の 4 分の 3 以上出席していること。 ただし、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和されます。</p> <p>(2) 最終学年まで修得すべき科目の単位を修得していること。</p> <p>(3) 卒業研究の評価が合格であること。</p> <p>(4) 学校行事への出席が良好であること。</p> <p>(※) 学則一部抜粋</p> <p>第 35 条 全学年の課程を修了した者について、校長は、所定の卒業証書を授与する。 2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan02.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan02.html</a>)</p> <p>(概要)</p> <p>本科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>1 教育課程編成の基本的な考え方</p> <p>教育課程編成にあたっては、本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科が掲げる学習目標に照らして、学生が必要な基礎学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。</p> <p>なお、授業科目には選択科目も設定されていますが、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるように教育課程を編成していますので、卒業認定を以て学習目標を達成したと認めることができます。</p> <p>2 科目構成と学習目標との対応</p> <p>本校の教育課程は、高専機構モデルコアカリキュラム（高専 MCC）に準拠し、「基礎的</p>

能力」、「専門的能力」、「分野横断的能力」を習得するために、授業科目と特別活動から構成される。さらに、授業科目は一般科目と専門科目に大別されます。

学習目標との対応は以下のとおりです。

(1)技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につけ、各学科の学習目標を達成できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

技術者として必要な基礎学力を身につけるため、高専 MCC に準拠した「基礎的能力」、「分野横断的能力」を修得するための授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。一般科目は高等学校と同じ科目や大学の 1・2 年次で履修する科目に相当する授業科目から構成されており、専門の学問や技術を修得するために必要な基礎学力の養成と、社会人として必要な一般教養の修得を目標としています。

また、技術者として必要な専門的知識を身につけ、各学科の学習目標（下表参照）を達成するために必要な専門的授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています（高専 MCC の「専門的能力」に対応する）。

(2)意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

専門科目は各学科における基礎的な学問や技術、その応用に関する科目で、特に実験・実習・製図・卒業研究などを通じて、自主的で創造性豊かな技術者となるための資質を養います。簡単な課題の解決からスタートし、学年進行に伴って徐々に複雑な課題に取り組むよう実験・実習・製図・卒業研究の中で課題テーマを設定しています。特に最後まであきらめずに取り組むことを重視しています。

また、特別活動は第 1 学年から第 3 学年で実施し、有意義な学生生活をおくるために必要な生活習慣を身につけます。さらに、各種行事を計画・実施することにより、学生の自主性や創造力、根気強さ、学科を横断した協調性を養います。

(3)幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

幅広い視点から自らの立場を理解できるよう社会系科目やコンピュータリテラシーなどの科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、地域課題解決等をテーマとした課題に取り組むことにより、地域・国際社会や環境に配慮できる人材を育成します。さらに国際社会を理解する上で必須の外国語（英語）科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

(4)自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

自分の考えを正しく表現できるよう国語科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、各学年で取り組む課題について意見交換し、発表する機会を繰り返し設けることによりプレゼンテーション能力を育成します。

#### <機械工学科>

機械工学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得するため、1 年生から 5 年生までに多くの専門科目を配置しています。社会に対する技術の責任を学ぶための文理融合科目や、福祉、環境、ロボットなどをテーマとした課題解決型の実験・演習に加え、卒業研究を通して人・社会・環境が調和する技術を生み出す応用力を身につけられるようにしています。

各学科と高専 MCC、学位授与機構専攻の区分との対応

学科名	学科の学習目標	高専 MCC	学位授与機構専攻の区分
機械工学科	材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。	機械系分野	機械工学

電気工学科	エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。	電気・電子系分野	電気電子工学
電子情報工学科	情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。	電気・電子系分野 情報系分野	電気電子工学 情報工学
環境都市工学科	くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。	建設系分野	土木工学
建築学科	建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。	建築系分野	建築学

### 3 成績の評価方法に関する方針

科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。

- (1) 講義形式の授業科目においては、試験・小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (2) 実技を伴う授業科目においては、実技テスト・筆記試験・課題・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (3) 実験・実習・製図およびPBL (Project Based Learning) などの実践的科目においては、課題・レポート・発表・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (4) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文・研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。

### 4 成績の評価および単位認定基準

各科目の成績は、シラバスに基づき総合的に評価します。1～3年次は100点法により50点以上、4～5年次は60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。

なお成績はS・A・B・C・D・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。

#### (1) 1～3年次

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- D (評点 50 点以上～60 点未満)
- 不可 (評点 50 点未満)

#### (2) 4～5年次

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- 不可 (評点 60 点未満)

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan03.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan03.html</a>)</p> <p>(概要) 本科のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針） 本校では、教養と工学の基礎を身につけ、創造的な能力、高度な科学技術に対応できる実践力、地域社会への関心と国際的な視野を有する人材を育成しています。</p> <p>1 アドミッション・ポリシー 入学者として次のような学生を求めます。 (1) 中学校で学んだことを身につけている人 (2) 特に、数学・理科の基礎学力がある人 また、本科4年次編入学の場合、入学者として次のような学生を求めます。 (1) 工学の基礎を身につけている人 (2) 向上心を持ち、より高い目標に向けて努力する人 (3) 自主性と協調性を持ち、社会貢献する意欲のある人</p> <p>2 求める学生像：全学科共通 (1) ものづくりに関心があり、様々な課題に意欲を持って取り組む人 (2) 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を送る人 (3) 将来、技術者として社会の発展に貢献したい人</p> <p>3 それぞれの学科が求める学生像 機械工学科 ・ものづくりに興味があり、創造力豊かな技術者になりたい人 ・自動車・飛行機・ロボットなどの機械やシステムに関心がある人 ・機械の仕事を通して、エネルギー・環境・福祉などの分野で社会に貢献したい人</p> <p>4 入学者選抜の実施方法 (1) 推薦による選抜 推薦書、調査書および適性検査（数学）・面接の結果を総合して判定します。 (2) 学力検査による選抜 学力検査の成績および調査書をもとに総合的に判定します。 学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。 1教科でも受検しないと失格（不合格）になります。 (3) 帰国生徒特別選抜 学力検査の成績、調査書および面接の結果をもとに総合的に判定します。 学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。</p>
<p>学部等名 電気工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html</a>)</p> <p>(概要) 教育理念・目標 基本理念 人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関</p> <p>教育理念 (1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育 (2) 創造的な能力と意欲を育む教育 (3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育</p>

(4) 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

養成すべき人材像

- (1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者
- (2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
- (3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者
- (4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者
- (5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
- (6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者
- (7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者
- (8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
- (9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
- (10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

【本科（準学士課程）の学習目標】

- (1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- (2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- (3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。
- (4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

・電気工学科

エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータなどの知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html>）

（概要）

本科のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

1 本校の目的

本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的としています。

2 学習目標

(1) 全学科共通の学習目標

- ・技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- ・意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- ・幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。
- ・自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

(2) 各学科の学習目標

・電気工学科

エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。

3 教育の特色

電気工学科

電気工学科では、電気・電子工学をはじめ、エネルギー、通信、半導体デバイス、情報など広い分野にわたる専門的「知識」と「技術」を身に付け、こういった分野で活躍できる技術者を育成することを目指しています。

<p>4 本科の卒業要件</p> <p>卒業の判定については、学則第 35 条(※)で定めるとおり全学年の課程を修了した者を卒業と認めますが、具体的には、以下のすべての要件を満たしていることが条件となります。</p> <p>なお、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるようにカリキュラムを編成していますので、卒業認定を以て本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科の学習目標を十分達成したと認めることができます。</p> <p>卒業要件</p> <p>(1) 各科目の年間授業時間数の 4 分の 3 以上出席していること。 ただし、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和されます。</p> <p>(2) 最終学年まで修得すべき科目の単位を修得していること。</p> <p>(3) 卒業研究の評価が合格であること。</p> <p>(4) 学校行事への出席が良好であること。</p> <p>(※) 学則一部抜粋 第 35 条 全学年の課程を修了した者について、校長は、所定の卒業証書を授与する。 2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan02.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan02.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>本科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>1 教育課程編成の基本的な考え方</p> <p>教育課程編成にあたっては、本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科が掲げる学習目標に照らして、学生が必要な基礎学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。</p> <p>なお、授業科目には選択科目も設定されていますが、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるように教育課程を編成していますので、卒業認定を以て学習目標を達成したと認めることができます。</p> <p>2 科目構成と学習目標との対応</p> <p>本校の教育課程は、高専機構モデルコアカリキュラム（高専 MCC）に準拠し、「基礎的能力」、「専門的能力」、「分野横断的能力」を習得するために、授業科目と特別活動から構成される。さらに、授業科目は一般科目と専門科目に大別されます。</p> <p>学習目標との対応は以下のとおりです。</p> <p>(1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につけ、各学科の学習目標を達成できるように下記のとおり教育課程を編成しています。</p> <p>技術者として必要な基礎学力を身につけるため、高専 MCC に準拠した「基礎的能力」、「分野横断的能力」を修得するための授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。一般科目は高等学校と同じ科目や大学の 1・2 年次で履修する科目に相当する授業科目から構成されており、専門の学問や技術を修得するために必要な基礎学力の養成と、社会人として必要な一般教養の修得を目標としています。</p> <p>また、技術者として必要な専門的知識を身につけ、各学科の学習目標（下表参照）を達成するために必要な専門的授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています（高専 MCC の「専門的能力」に対応する）。</p> <p>(2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができるように下記のとおり教育課程を編成しています。</p> <p>専門科目は各学科における基礎的な学問や技術、その応用に関する科目で、特に実験・実習・製図・卒業研究などを通じて、自主的で創造性豊かな技術者となるための</p>

資質を養います。簡単な課題の解決からスタートし、学年進行に伴って徐々に複雑な課題に取り組むよう実験・実習・製図・卒業研究の中で課題テーマを設定しています。特に最後まであきらめずに取り組むことを重視しています。

また、特別活動は第1学年から第3学年で実施し、有意義な学生生活をおくるために必要な生活習慣を身につけます。さらに、各種行事を計画・実施することにより、学生の自主性や創造力、根気強さ、学科を横断した協調性を養います。

(3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

幅広い視点から自らの立場を理解できるよう社会系科目やコンピュータリテラシーなどの科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、地域課題解決等をテーマとした課題に取り組むことにより、地域・国際社会や環境に配慮できる人材を育成します。さらに国際社会を理解する上で必須の外国語（英語）科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

(4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

自分の考えを正しく表現できるよう国語科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、各学年で取り組む課題について意見交換し、発表する機会を繰り返し設けることによりプレゼンテーション能力を育成します。

#### <電気工学科>

電気工学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得するために、1年生から5年生までに多くの専門科目を配置しています。実験や卒業研究を通して、専門の知識と技術を「ものづくり」や課題の解決に応用できるようにしています。

各学科と高専 MCC、学位授与機構専攻の区分との対応

学科名	学科の学習目標	高専 MCC	学位授与機構専攻の区分
機械工学科	材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。	機械系分野	機械工学
電気工学科	エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。	電気・電子系分野	電気電子工学
電子情報工学科	情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。	電気・電子系分野 情報系分野	電気電子工学 情報工学
環境都市工学科	くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。	建設系分野	土木工学
建築学科	建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建	建築系分野	建築学



	<p>築への様々な課題の解決に応用できる。</p>	
<p>3 成績の評価方法に関する方針</p> <p>科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。</p> <p>(1) 講義形式の授業科目においては、試験・小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。</p> <p>(2) 実技を伴う授業科目においては、実技テスト・筆記試験・課題・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。</p> <p>(3) 実験・実習・製図およびPBL (Project Based Learning) などの実践的科目においては、課題・レポート・発表・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。</p> <p>(4) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文・研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。</p> <p>4 成績の評価および単位認定基準</p> <p>各科目の成績は、シラバスに基づき総合的に評価します。1～3年次は100点法により50点以上、4～5年次は60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。</p> <p>なお成績はS・A・B・C・D・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。</p> <p>(1) 1～3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>S (評点 90 点以上)</li> <li>A (評点 80 点以上～90 点未満)</li> <li>B (評点 70 点以上～80 点未満)</li> <li>C (評点 60 点以上～70 点未満)</li> <li>D (評点 50 点以上～60 点未満)</li> <li>不可 (評点 50 点未満)</li> </ul> <p>(2) 4～5年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>S (評点 90 点以上)</li> <li>A (評点 80 点以上～90 点未満)</li> <li>B (評点 70 点以上～80 点未満)</li> <li>C (評点 60 点以上～70 点未満)</li> <li>不可 (評点 60 点未満)</li> </ul>		
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan03.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan03.html</a>)</p>		
<p>(概要)</p> <p>本科のアドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)</p> <p>本校では、教養と工学の基礎を身につけ、創造的な能力、高度な科学技術に対応できる実践力、地域社会への関心と国際的な視野を有する人材を育成しています。</p> <p>1 アドミッション・ポリシー</p> <p>入学者として次のような学生を求めます。</p> <p>(1) 中学校で学んだことを身につけている人</p> <p>(2) 特に、数学・理科の基礎学力がある人</p> <p>また、本科4年次編入学の場合、入学者として次のような学生を求めます。</p> <p>(1) 工学の基礎を身につけている人</p> <p>(2) 向上心を持ち、より高い目標に向けて努力する人</p> <p>(3) 自主性と協調性を持ち、社会貢献する意欲のある人</p> <p>2 求める学生像：全学科共通</p> <p>(1) ものづくりに関心があり、様々な課題に意欲を持って取り組む人</p>		

- (2) 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を送る人
- (3) 将来、技術者として社会の発展に貢献したい人

3 それぞれの学科が求める学生像

電気工学科

- ・ロボット・コンピュータなどのしくみに興味がある人
- ・エネルギー・通信・ITなどの生活を支える技術に関心がある人
- ・最先端技術に関心があり、社会の発展に貢献したい人

4 入学者選抜の実施方法

(1) 推薦による選抜

推薦書、調査書および適性検査（数学）・面接の結果を総合して判定します。

(2) 学力検査による選抜

学力検査の成績および調査書をもとに総合的に判定します。

学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。

1教科でも受検しないと失格（不合格）になります。

(3) 帰国生徒特別選抜

学力検査の成績、調査書および面接の結果をもとに総合的に判定します。

学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。

学部等名 電子情報工学科

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html>）

（概要）

教育理念・目標

基本理念

人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関

教育理念

- (1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
- (2) 創造的な能力と意欲を育む教育
- (3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
- (4) 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

養成すべき人材像

- (1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者
- (2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
- (3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者
- (4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者
- (5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
- (6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者
- (7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者
- (8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
- (9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
- (10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

【本科（準学士課程）の学習目標】

- (1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- (2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。

- (3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。  
(4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

・電子情報工学科

情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html>)

(概要)

本科のディプロマ・ポリシー (卒業認定の方針)

1 本校の目的

本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的としています。

2 学習目標

(1) 全学科共通の学習目標

- ・技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- ・意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- ・幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。
- ・自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

(2) 各学科の学習目標

・電子情報工学科

情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。

3 教育の特色

電子情報工学科

電子情報工学科では、電子工学、情報工学、通信工学の豊富な知識をもちながら、これらを融合した技術を駆使しシステム思考のできる人材を育成すると同時に、人や環境も視野に入れた未来志向の電子情報工学技術者を育てることを目指しています。

4 本科の卒業要件

卒業の判定については、学則第 35 条(※)で定めるとおり全学年の課程を修了した者を卒業と認めますが、具体的には、以下のすべての要件を満たしていることが条件となります。

なお、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるようにカリキュラムを編成していますので、卒業認定を以て本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科の学習目標を十分達成したと認めることができます。

卒業要件

- (1) 各科目の年間授業時間数の 4 分の 3 以上出席していること。  
ただし、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和されます。
- (2) 最終学年まで修得すべき科目の単位を修得していること。
- (3) 卒業研究の評価が合格であること。
- (4) 学校行事への出席が良好であること。

(※) 学則一部抜粋

第 35 条 全学年の課程を修了した者について、校長は、所定の卒業証書を授与する。

2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。

#### 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan02.html>)

(概要)

本科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

##### 1 教育課程編成の基本的な考え方

教育課程編成にあたっては、本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科が掲げる学習目標に照らして、学生が必要な基礎学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。

なお、授業科目には選択科目も設定されていますが、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるように教育課程を編成していますので、卒業認定を以て学習目標を達成したと認めることができます。

##### 2 科目構成と学習目標との対応

本校の教育課程は、高専機構モデルコアカリキュラム（高専 MCC）に準拠し、「基礎的能力」、「専門的能力」、「分野横断的能力」を習得するために、授業科目と特別活動から構成される。さらに、授業科目は一般科目と専門科目に大別されます。

学習目標との対応は以下のとおりです。

- (1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につけ、各学科の学習目標を達成できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

技術者として必要な基礎学力を身につけるため、高専 MCC に準拠した「基礎的能力」、「分野横断的能力」を修得するための授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。一般科目は高等学校と同じ科目や大学の 1・2 年次で履修する科目に相当する授業科目から構成されており、専門の学問や技術を修得するために必要な基礎学力の養成と、社会人として必要な一般教養の修得を目標としています。

また、技術者として必要な専門的知識を身につけ、各学科の学習目標（下表参照）を達成するために必要な専門的授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています（高専 MCC の「専門的能力」に対応する）。

- (2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

専門科目は各学科における基礎的な学問や技術、その応用に関する科目で、特に実験・実習・製図・卒業研究などを通じて、自主的で創造性豊かな技術者となるための資質を養います。簡単な課題の解決からスタートし、学年進行に伴って徐々に複雑な課題に取り組むよう実験・実習・製図・卒業研究の中で課題テーマを設定しています。特に最後まであきらめずに取り組むことを重視しています。

また、特別活動は第 1 学年から第 3 学年で実施し、有意義な学生生活をおくるために必要な生活習慣を身につけます。さらに、各種行事を計画・実施することにより、学生の自主性や創造力、根気強さ、学科を横断した協調性などを養います。

- (3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

幅広い視点から自らの立場を理解できるよう社会系科目やコンピュータリテラシーなどの科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、地域課題解決等をテーマとした課題に取り組むことにより、地域・国際社会や環境に配慮できる人材を育成します。さらに国際社会を理解する上で必須の外国語（英語）科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

- (4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

自分の考えを正しく表現できるよう国語科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、各学年で取り組む課題について意見交換し、発表す

る機会を繰り返し設けることによりプレゼンテーション能力を育成します。

#### <電子情報工学科>

電子情報工学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得するために、1年生から5年生までに多くの専門科目を配置しています。実験や演習、卒業研究を通して、システム設計や開発を行うことができる能力を身につけられるようにしています。

各学科と高専 MCC、学位授与機構専攻の区分との対応

学科名	学科の学習目標	高専 MCC	学位授与機構 専攻の区分
機械工学科	材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。	機械系分野	機械工学
電気工学科	エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。	電気・電子系分野	電気電子工学
電子情報工学科	情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。	電気・電子系分野 情報系分野	電気電子工学 情報工学
環境都市工学科	くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。	建設系分野	土木工学
建築学科	建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。	建築系分野	建築学

### 3 成績の評価方法に関する方針

科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。

- (1) 講義形式の授業科目においては、試験・小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (2) 実技を伴う授業科目においては、実技テスト・筆記試験・課題・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (3) 実験・実習・製図およびPBL (Project Based Learning) などの実践的科目においては、課題・レポート・発表・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (4) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文・研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。

### 4 成績の評価および単位認定基準

各科目の成績は、シラバスに基づき総合的に評価します。1～3年次は100点法により50点以上、4～5年次は60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。

なお成績はS・A・B・C・D・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。

(1) 1～3年次

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- D (評点 50 点以上～60 点未満)
- 不可 (評点 50 点未満)

(2) 4～5年次

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- 不可 (評点 60 点未満)

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan03.html>)

(概要)

本科のアドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

本校では、教養と工学の基礎を身につけ、創造的な能力、高度な科学技術に対応できる実践力、地域社会への関心と国際的な視野を有する人材を育成しています。

1 アドミッション・ポリシー

入学者として次のような学生を求めます。

- (1) 中学校で学んだことを身につけている人
- (2) 特に、数学・理科の基礎学力がある人

また、本科4年次編入学の場合、入学者として次のような学生を求めます。

- (1) 工学の基礎を身につけている人
- (2) 向上心を持ち、より高い目標に向けて努力する人
- (3) 自主性と協調性を持ち、社会貢献する意欲のある人

2 求める学生像：全学科共通

- (1) ものづくりに関心があり、様々な課題に意欲を持って取り組む人
- (2) 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を送る人
- (3) 将来、技術者として社会の発展に貢献したい人

3 それぞれの学科が求める学生像

電子情報工学科

- ・コンピュータの原理やプログラミングなどに興味がある人
- ・情報・電子・通信の融合技術を身につけたい人
- ・最先端の情報通信技術で社会に貢献したい人

4 入学者選抜の実施方法

(1) 推薦による選抜

推薦書、調査書および適性検査(数学)・面接の結果を総合して判定します。

(2) 学力検査による選抜

学力検査の成績および調査書をもとに総合的に判定します。

学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験(マークシート方式)を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。

1教科でも受検しないと失格(不合格)になります。

(3) 帰国生徒特別選抜

<p>学力検査の成績，調査書および面接の結果をもとに総合的に判定します。</p> <p>学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。</p>
<p>学部等名 環境都市工学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育理念・目標</p> <p>基本理念</p> <p>人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関</p> <p>教育理念</p> <p>(1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育</p> <p>(2) 創造的な能力と意欲を育む教育</p> <p>(3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育</p> <p>(4) 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育</p> <p>養成すべき人材像</p> <p>(1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者</p> <p>(2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者</p> <p>(3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者</p> <p>(4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者</p> <p>(5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者</p> <p>(6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者</p> <p>(7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者</p> <p>(8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者</p> <p>(9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者</p> <p>(10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者</p> <p>【本科（準学士課程）の学習目標】</p> <p>(1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。</p> <p>(2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。</p> <p>(3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。</p> <p>(4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。</p> <p>・環境都市工学科</p> <p>くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>本科のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）</p> <p>1 本校の目的</p> <p>本校は、教育基本法 の精神にのっとり、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的としています。</p> <p>2 学習目標</p> <p>(1) 全学科共通の学習目標</p> <p>・技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。</p>

- ・意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- ・幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。
- ・自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

## (2) 各学科の学習目標

- ・環境都市工学科

くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。

## 3 教育の特色

### 環境都市工学科

環境都市工学科では、私たちの生活に大切な都市施設などの整備に関する技術を学ぶことを目的としています。すなわち、道路や橋、港湾などの公共施設の建設技術を身につけ、さらに、自然環境との調和やうるおいのある生活環境も考えることのできる広い視野を持った技術者の育成を目指しています。

## 4 本科の卒業要件

卒業の判定については、学則第 35 条(※)で定めるとおり全学年の課程を修了した者を卒業と認めますが、具体的には、以下のすべての要件を満たしていることが条件となります。

なお、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるようにカリキュラムを編成していますので、卒業認定を以て本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科の学習目標を十分達成したと認めることができます。

### 卒業要件

- (1) 各科目の年間授業時間数の 4 分の 3 以上出席していること。

ただし、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和されます。

- (2) 最終学年まで修得すべき科目の単位を修得していること。
- (3) 卒業研究の評価が合格であること。
- (4) 学校行事への出席が良好であること。

### (※) 学則一部抜粋

第 35 条 全学年の課程を修了した者について、校長は、所定の卒業証書を授与する。

2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。

### 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan02.html>)

#### (概要)

#### 本科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

##### 1 教育課程編成の基本的な考え方

教育課程編成にあたっては、本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科が掲げる学習目標に照らして、学生が必要な基礎学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。

なお、授業科目には選択科目も設定されていますが、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるように教育課程を編成していますので、卒業認定を以て学習目標を達成したと認めることができます。

##### 2 科目構成と学習目標との対応

本校の教育課程は、高専機構モデルコアカリキュラム（高専 MCC）に準拠し、「基礎的能力」、「専門的能力」、「分野横断的能力」を習得するために、授業科目と特別活動から構成される。さらに、授業科目は一般科目と専門科目に大別されます。



学習目標との対応は以下のとおりです。

- (1)技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につけ、各学科の学習目標を達成できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

技術者として必要な基礎学力を身につけるため、高専 MCC に準拠した「基礎的能力」、「分野横断的能力」を修得するための授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。一般科目は高等学校と同じ科目や大学の1・2年次で履修する科目に相当する授業科目から構成されており、専門の学問や技術を修得するために必要な基礎学力の養成と、社会人として必要な一般教養の修得を目標としています。

また、技術者として必要な専門的知識を身につけ、各学科の学習目標（下表参照）を達成するために必要な専門的授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています（高専 MCC の「専門的能力」に対応する）。

- (2)意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

専門科目は各学科における基礎的な学問や技術、その応用に関する科目で、特に実験・実習・製図・卒業研究などを通じて、自主的で創造性豊かな技術者となるための資質を養います。簡単な課題の解決からスタートし、学年進行に伴って徐々に複雑な課題に取り組むよう実験・実習・製図・卒業研究の中で課題テーマを設定しています。特に最後まであきらめずに取り組むことを重視しています。

また、特別活動は第1学年から第3学年で実施し、有意義な学生生活をおくるために必要な生活習慣を身につけます。さらに、各種行事を計画・実施することにより、学生の自主性や創造力、根気強さ、学科を横断した協調性などを養います。

- (3)幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

幅広い視点から自らの立場を理解できるよう社会系科目やコンピュータリテラシーなどの科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、地域課題解決等をテーマとした課題に取り組むことにより、地域・国際社会や環境に配慮できる人材を育成します。さらに国際社会を理解する上で必須の外国語（英語）科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

- (4)自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

自分の考えを正しく表現できるよう国語科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、各学年で取り組む課題について意見交換し、発表する機会を繰り返し設けることによりプレゼンテーション能力を育成します。

#### <環境都市工学科>

環境都市工学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

くらしを支える施設の設備、防災、環境保全に関する知識を習得するために、1年生から5年生までに社会のニーズに合わせバランス良く多くの専門科目を配置しています。実験実習や設計製図などの実践教育に加え、卒業研究を通して、環境都市分野の様々な課題を解決できる技術力・創造力を身につけられるようにしています。

各学科と高専 MCC、学位授与機構専攻の区分との対応

学科名	学科の学習目標	高専 MCC	学位授与機構専攻の区分
機械工学科	材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。	機械系分野	機械工学

電気工学科	エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。	電気・電子系分野	電気電子工学
電子情報工学科	情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。	電気・電子系分野 情報系分野	電気電子工学 情報工学
環境都市工学科	くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。	建設系分野	土木工学
建築学科	建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。	建築系分野	建築学

### 3 成績の評価方法に関する方針

科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。

- (1) 講義形式の授業科目においては、試験・小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (2) 実技を伴う授業科目においては、実技テスト・筆記試験・課題・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (3) 実験・実習・製図およびPBL (Project Based Learning) などの実践的科目においては、課題・レポート・発表・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (4) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文・研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。

### 4 成績の評価および単位認定基準

各科目の成績は、シラバスに基づき総合的に評価します。1～3年次は100点法により50点以上、4～5年次は60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。

なお成績はS・A・B・C・D・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。

#### (1) 1～3年次

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- D (評点 50 点以上～60 点未満)
- 不可 (評点 50 点未満)

#### (2) 4～5年次

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- 不可 (評点 60 点未満)

<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan03.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan03.html</a>)</p> <p>(概要)  本科のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）  本校では、教養と工学の基礎を身につけ、創造的な能力、高度な科学技術に対応できる実践力、地域社会への関心と国際的な視野を有する人材を育成しています。</p> <p>1 アドミッション・ポリシー  入学者として次のような学生を求めます。  (1) 中学校で学んだことを身につけている人  (2) 特に、数学・理科の基礎学力がある人  また、本科4年次編入学の場合、入学者として次のような学生を求めます。  (1) 工学の基礎を身につけている人  (2) 向上心を持ち、より高い目標に向けて努力する人  (3) 自主性と協調性を持ち、社会貢献する意欲のある人</p> <p>2 求める学生像：全学科共通  (1) ものづくりに関心があり、様々な課題に意欲を持って取り組む人  (2) 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を送る人  (3) 将来、技術者として社会の発展に貢献したい人</p> <p>3 それぞれの学科が求める学生像  環境都市工学科  ・道路・橋・空港・上下水道などの都市づくりに興味がある人  ・都市づくりを通して地域社会に貢献したい人  ・くらしと自然を守る都市づくりに熱意がもてる人</p> <p>4 入学者選抜の実施方法  (1) 推薦による選抜  推薦書、調査書および適性検査（数学）・面接の結果を総合して判定します。  (2) 学力検査による選抜  学力検査の成績および調査書をもとに総合的に判定します。  学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。  1教科でも受検しないと失格（不合格）になります。  (3) 帰国生徒特別選抜  学力検査の成績、調査書および面接の結果をもとに総合的に判定します。  学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。</p>
<p>学部等名 建築学科</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html</a>)</p> <p>(概要)  教育理念・目標  基本理念  人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関</p> <p>教育理念  (1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育  (2) 創造的な能力と意欲を育む教育  (3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育  (4) 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育</p>

### 養成すべき人材像

- (1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者
- (2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
- (3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者
- (4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者
- (5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
- (6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者
- (7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者
- (8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
- (9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
- (10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

### 【本科（準学士課程）の学習目標】

- (1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- (2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- (3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。
- (4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

#### ・建築学科

建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。

### 卒業の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan01.html>）

（概要）

#### 本科のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

##### 1 本校の目的

本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的としています。

##### 2 学習目標

###### (1) 全学科共通の学習目標

- ・技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- ・意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- ・幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。
- ・自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

###### (2) 各学科の学習目標

###### ・建築学科

建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。

##### 3 教育の特色

###### 建築学科

建築学科では、幅広い知識と豊かな創造力をもつ建築技術者を養成することを目指し、専門の基礎科目を重視する一方、計画・構造・環境のコンピュータ処理技術のほか、新しい時代への対応を学ぶなど、幅広い知識を習得できるよう力を注いでいます。

##### 4 本科の卒業要件

卒業の判定については、学則第 35 条(※)で定めるとおり全学年の課程を修了した者を卒業と認めますが、具体的には、以下のすべての要件を満たしていることが条件となります。

なお、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるようにカリキュラムを編成していますので、卒業認定を以て本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科の学習目標を十分達成したと認めることができます。

#### 卒業要件

- (1) 各科目の年間授業時間数の 4 分の 3 以上出席していること。  
ただし、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和されます。
- (2) 最終学年まで修得すべき科目の単位を修得していること。
- (3) 卒業研究の評価が合格であること。
- (4) 学校行事への出席が良好であること。

#### (※) 学則一部抜粋

第 35 条 全学年の課程を修了した者について、校長は、所定の卒業証書を授与する。  
2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。

#### 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan02.html>)

#### (概要)

#### 本科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

##### 1 教育課程編成の基本的な考え方

教育課程編成にあたっては、本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科が掲げる学習目標に照らして、学生が必要な基礎学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。

なお、授業科目には選択科目も設定されていますが、必修科目の修得だけでも学習目標は達成されるように教育課程を編成していますので、卒業認定を以て学習目標を達成したと認めることができます。

##### 2 科目構成と学習目標との対応

本校の教育課程は、高専機構モデルコアカリキュラム（高専 MCC）に準拠し、「基礎的能力」、「専門的能力」、「分野横断的能力」を習得するために、授業科目と特別活動から構成される。さらに、授業科目は一般科目と専門科目に大別されます。

学習目標との対応は以下のとおりです。

- (1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につけ、各学科の学習目標を達成できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

技術者として必要な基礎学力を身につけるため、高専 MCC に準拠した「基礎的能力」、「分野横断的能力」を修得するための授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。一般科目は高等学校と同じ科目や大学の 1・2 年次で履修する科目に相当する授業科目から構成されており、専門の学問や技術を修得するために必要な基礎学力の養成と、社会人として必要な一般教養の修得を目標としています。

また、技術者として必要な専門的知識を身につけ、各学科の学習目標（下表参照）を達成するために必要な専門的授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています（高専 MCC の「専門的能力」に対応する）。

- (2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

専門科目は各学科における基礎的な学問や技術、その応用に関する科目で、特に実験・実習・製図・卒業研究などを通じて、自主的で創造性豊かな技術者となるための資質を養います。簡単な課題の解決からスタートし、学年進行に伴って徐々に複雑な

課題に取り組むよう実験・実習・製図・卒業研究の中で課題テーマを設定しています。特に最後まであきらめずに取り組むことを重視しています。

また、特別活動は第1学年から第3学年で実施し、有意義な学生生活をおくるために必要な生活習慣を身につけます。さらに、各種行事を計画・実施することにより、学生の自主性や創造力、根気強さ、学科を横断した協調性などを養います。

(3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

幅広い視点から自らの立場を理解できるよう社会系科目やコンピュータリテラシーなどの科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、地域課題解決等をテーマとした課題に取り組むことにより、地域・国際社会や環境に配慮できる人材を育成します。さらに国際社会を理解する上で必須の外国語（英語）科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

(4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

自分の考えを正しく表現できるよう国語科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、各学年で取り組む課題について意見交換し、発表する機会を繰り返し設けることによりプレゼンテーション能力を育成します。

#### <建築学科>

建築学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得するため、1年生から5年生までに多くの専門科目を配置して、創造性を育てていきます。住生活の課題を設計演習で取り組み、学年が上がるにつれて地域・都市環境にわたる知識も習得していきます。卒業研究を通して建築への様々な課題の解決に応用できるようにしています。

各学科と高専 MCC、学位授与機構専攻の区分との対応

学科名	学科の学習目標	高専 MCC	学位授与機構専攻の区分
機械工学科	材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。	機械系分野	機械工学
電気工学科	エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。	電気・電子系分野	電気電子工学
電子情報工学科	情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。	電気・電子系分野 情報系分野	電気電子工学 情報工学
環境都市工学科	くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。	建設系分野	土木工学
建築学科	建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。	建築系分野	建築学

### 3 成績の評価方法に関する方針

科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。

- (1) 講義形式の授業科目においては、試験・小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (2) 実技を伴う授業科目においては、実技テスト・筆記試験・課題・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (3) 実験・実習・製図およびPBL (Project Based Learning) などの実践的科目においては、課題・レポート・発表・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (4) 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文・研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。

### 4 成績の評価および単位認定基準

各科目の成績は、シラバスに基づき総合的に評価します。1～3年次は100点法により50点以上、4～5年次は60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。

なお成績はS・A・B・C・D・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。

#### (1) 1～3年次

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- D (評点 50 点以上～60 点未満)
- 不可 (評点 50 点未満)

#### (2) 4～5年次

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- 不可 (評点 60 点未満)

### 入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan03.html>)

(概要)

本科のアドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

本校では、教養と工学の基礎を身につけ、創造的な能力、高度な科学技術に対応できる実践力、地域社会への関心と国際的な視野を有する人材を育成しています。

#### 1 アドミッション・ポリシー

入学者として次のような学生を求めます。

- (1) 中学校で学んだことを身につけている人
- (2) 特に、数学・理科の基礎学力がある人

また、本科4年次編入学の場合、入学者として次のような学生を求めます。

- (1) 工学の基礎を身につけている人
- (2) 向上心を持ち、より高い目標に向けて努力する人
- (3) 自主性と協調性を持ち、社会貢献する意欲のある人

#### 2 求める学生像：全学科共通

- (1) ものづくりに関心があり、様々な課題に意欲を持って取り組む人
- (2) 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を送る人

<p>(3) 将来、技術者として社会の発展に貢献したい人</p> <p>3 それぞれの学科が求める学生像          建築学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築の材料や構造、環境やデザインに興味がある人</li> <li>・ 建築を作る過程（設計・施工・管理）に関心がある人</li> <li>・ 建築を通して生活環境づくりに貢献したい人</li> </ul> <p>4 入学者選抜の実施方法</p> <p>(1) 推薦による選抜          推薦書、調査書および適性検査（数学）・面接の結果を総合して判定します。</p> <p>(2) 学力検査による選抜          学力検査の成績および調査書をもとに総合的に判定します。          学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。          1教科でも受検しないと失格（不合格）になります。</p> <p>(3) 帰国生徒特別選抜          学力検査の成績、調査書および面接の結果をもとに総合的に判定します。          学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。</p>
<p>学部等名 電子機械工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的          （公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html</a>）</p>
<p>（概要）          教育理念・目標          基本理念          人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関</p> <p>教育理念</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育</li> <li>(2) 創造的な能力と意欲を育む教育</li> <li>(3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育</li> <li>(4) 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育</li> </ol> <p>養成すべき人材像</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者</li> <li>(2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者</li> <li>(3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者</li> <li>(4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者</li> <li>(5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者</li> <li>(6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者</li> <li>(7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者</li> <li>(8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者</li> <li>(9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者</li> <li>(10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者</li> </ol> <p>【専攻科課程の学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。</li> <li>(2) 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決まで</li> </ol>



<p>できる。</p> <p>(3) 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。</p> <p>(4) 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。</p> <p>(5) チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。</p> <p>・電子機械工学専攻 機械、電気、電子、情報などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができる。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan04.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan04.html</a>)</p>
<p>(概要) 専攻科のディプロマ・ポリシー (修了認定の方針) 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な専門知識と技術を教授して、先端技術にも対応できる創造的な技術開発能力を備え、幅広い分野で活躍できる研究開発型技術者の育成を目的としています。</p> <p>修了判定にあっては、学則第 54 条(※)で定める要件を満たした者を修了と認定します。 なお、修了時には本校が掲げる専攻科課程共通の学習目標及び電子機械工学専攻、環境建設工学専攻が掲げるそれぞれの学習目標を達成できるよう授業科目が設定されていますので、修了認定を以てそれを達成したと認めることができます。</p> <p>(※) 学則一部抜粋 第 54 条 学生は、専攻科に 2 年以上在学し所定の授業科目を履修し、62 単位以上を修得するものとする。 2 学生は、指定された創造工学プログラムの修了要件をすべて満たさなければならない。 3 校長は、前 2 項の要件を満たした者に対し修了を認定し、修了証書を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan05.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan05.html</a>)</p>
<p>(概要) 専攻科のカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) 1 教育課程編成の基本的な考え方 教育課程編成にあたっては、本校が掲げる専攻科課程の学習目標に照らして、学生が必要な学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。 なお、修了時に修得すべき学習目標を満たすよう授業科目が設定されていますので修了認定を以て学習目標の達成と認めることができます。</p> <p>2 科目構成と学習目標との対応 専攻科の授業科目は、電子機械工学専攻、環境建設工学専攻の共通の一般科目及び専門共通科目と各専攻で異なる専門展開科目から構成されています。専攻科共通の A～E 及び各専攻で異なる F の学習目標を達成すべく科目配置が行われています。 本科 4、5 学年及び専攻科 1、2 学年を一貫する「創造工学プログラム」を設定しています。このプログラムにおける学習・教育目標は、専攻科課程の学習目標と連関するものとし、科目構成との対応は以下の通りとなります。なお、学位取得申請における分野別必要単位に対しても十分な科目数を確保しています。 A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。</p>

デザインや創造に必要となる工学基礎力を身に付けるため、①設計システム系、②情報倫理系、③材料バイオ系、④力学系、⑤社会技術系の5つのプログラム科目群を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、PBL(Problem-based learning)の経験から創造の喜びを知るための演習系科目を設け、計画・実行、課題解決・ものづくり、データ分析・工学的考察、発表を重視した総合的な学習を展開しています。

B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできるように下記のとおり教育課程を編成しています。

学士の能力を有した技術者として専門工学の知識と能力を身に付けるため、基盤学科の専門展開科目、ならびに数学(情報処理)・物理による理論解析能力を身に付ける科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

今後ますます必要となる国際性や、問題解決能力などの涵養を望む社会からの要請に対処すべく外国語によるコミュニケーション能力を身に付ける科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。さらに、語学力の習得を確認するために修了までに「総合英語力到達度試験」に合格することを義務付けています。

文化の継承や健康の増進は持続可能な社会へ向けた共通課題であり、それらに対処するためのリベラルアーツ系科目を設けるとともに、現代社会・地域社会、環境問題を理解し対応するための文理融合科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

地域企業などが抱える実務上の問題に対する解決法を体得するための方法として、長期のインターンシップを実施しています。また、実務上の問題として、いろいろな環境技術について検討できるよう環境関連科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。さらに、C. D. の学習目標に対して、特別研究分野に関連した技術者倫理/環境関連のテーマについてのレポート提出を義務付けています。

E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

与えられた制約の下で計画的に仕事を進める能力を身に付ける演習科目を設け、基盤学科の枠を超えた分野横断的なチームプロジェクトを展開しています。

日本語による論理的な記述、コミュニケーションに対処するためのリベラルアーツ系科目を設けるとともに、自主的・継続的に研究に取り組む特別研究を配置し、計画性、論理性、プレゼンテーションスキルを重視した総合的な学習を展開しています。なお、特別研究の成果について学会等での外部発表を義務付けています。

F. 機械、電気、電子、情報などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

機械、電気、電子、情報などのいくつかの工学知識を修得し、幅広い考察ができるよう、準学士課程において基盤として学んだ専門分野の授業科目群と専門分野以外の授業科目群を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

### 3 成績の評価方法に関する方針

科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。

- (1) 講義形式の授業科目においては、試験の得点や小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (2) 実技を伴う授業科目においては、ポートフォリオ、実技試験、筆記試験、課題などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (3) 創造工学演習などの実践的科目においては、課題、レポート、発表、ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。

<p>(4) インターンシップにおいては、研修態度、理解力、実行力、報告・相談、実習成果、報告書、発表などにより到達度を判定し、派遣企業等からの評価、巡回指導の評価、報告書の評価、プレゼンテーションの評価を総合して成績評価する。</p> <p>(5) 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。</p> <p>4 成績の評価および単位認定基準</p> <p>シラバスに基づき、100点法により60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。</p> <p>なお成績はS・A・B・C・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。</p> <p>S (評点 90 点以上)</p> <p>A (評点 80 点以上～90 点未満)</p> <p>B (評点 70 点以上～80 点未満)</p> <p>C (評点 60 点以上～70 点未満)</p> <p>不可 (評点 60 点未満)</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan06.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan06.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>専攻科のアドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)</p> <p>専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な専門知識と技術を教授して、先端技術にも対応できる創造的な技術開発能力を備え、幅広い分野で活躍できる研究開発型技術者の育成を目的としています。</p> <p>1 アドミッション・ポリシー</p> <p>入学者として次のような学生を求めます。</p> <p>(1) 高等専門学校などにおいて工学の基礎を修得した人</p> <p>(2) 幅広い分野の工学知識について学習する意欲のある人</p> <p>(3) 国際的に通用する技術者として、社会貢献する意欲のある人</p> <p>2 入学者選抜の実施方法</p> <p>(1) 推薦による選抜</p> <p>入学者の選抜は、面接、出身学校長から提出された推薦書、調査書および TOEIC のスコアを総合判定して行います。</p> <p>(2) 学力検査による選抜</p> <p>入学者の選抜は、学力検査、出身学校長から提出された調査書、面接を総合判定して行います。</p> <p>学力検査は、数学及び専門科目について筆記試験を行い、英語については出願時に提出された、TOEIC のスコアにより評価します。</p> <p>(3) 社会人特別選抜</p> <p>入学者の選抜は、面接 (業務経験等の概要又は専門科目に関すること)、出身学校長から提出された調査書及び TOEIC のスコアを総合判定して行います。</p>
<p>学部等名 環境建設工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/doctorine.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育理念・目標</p> <p>基本理念</p> <p>人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関</p>

#### 教育理念

- (1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
- (2) 創造的な能力と意欲を育む教育
- (3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
- (4) 地域社会への関心と国際的な視野を育む教育

#### 養成すべき人材像

- (1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者
- (2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
- (3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者
- (4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者
- (5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
- (6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者
- (7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者
- (8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
- (9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
- (10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

#### 【専攻科課程の学習目標】

- (1) 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- (2) 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- (3) 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- (4) 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- (5) チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

#### ・環境建設工学専攻

建設、環境、建築などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができる。

#### 卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan04.html>)

#### (概要)

##### 専攻科のディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な専門知識と技術を教授して、先端技術にも対応できる創造的な技術開発能力を備え、幅広い分野で活躍できる研究開発型技術者の育成を目的としています。

修了判定にあっては、学則第 54 条(※)で定める要件を満たした者を修了と認定します。なお、修了時には本校が掲げる専攻科課程共通の学習目標及び電子機械工学専攻、環境建設工学専攻が掲げるそれぞれの学習目標を達成できるよう授業科目が設定されていますので、修了認定を以てそれを達成したと認めることができます。

#### (※) 学則一部抜粋

第 54 条 学生は、専攻科に 2 年以上在学し所定の授業科目を履修し、62 単位以上を修得するものとする。

2 学生は、指定された創造工学プログラムの修了要件をすべて満たさなければならない

<p>い。</p> <p>3 校長は、前2項の要件を満たした者に対し修了を認定し、修了証書を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan05.html">https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan05.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>専攻科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>1 教育課程編成の基本的な考え方</p> <p>教育課程編成にあたっては、本校が掲げる専攻科課程の学習目標に照らして、学生が必要な学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。</p> <p>なお、修了時に修得すべき学習目標を満たすよう授業科目が設定されていますので修了認定を以て学習目標の達成と認めることができます。</p> <p>2 科目構成と学習目標との対応</p> <p>専攻科の授業科目は、電子機械工学専攻、環境建設工学専攻の共通の一般科目及び専門共通科目と各専攻で異なる専門展開科目から構成されています。専攻科共通のA～E及び各専攻で異なるFの学習目標を達成すべく科目配置が行われています。</p> <p>本科4、5学年及び専攻科1、2学年を一貫する「創造工学プログラム」を設定しています。このプログラムにおける学習・教育目標は、専攻科課程の学習目標と連関するものとし、科目構成との対応は以下の通りとなります。なお、学位取得申請における分野別必要単位に対しても十分な科目数を確保しています。</p> <p>A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。</p> <p>デザインや創造に必要な工学基礎力を身に付けるため、①設計システム系、②情報倫理系、③材料バイオ系、④力学系、⑤社会技術系の5つのプログラム科目群を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、PBL(Problem-based learning)の経験から創造の喜びを知るための演習系科目を設け、計画・実行、課題解決・ものづくり、データ分析・工学的考察、発表を重視した総合的な学習を展開しています。</p> <p>B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできるように下記のとおり教育課程を編成しています。</p> <p>学士の能力を有した技術者として専門工学の知識と能力を身に付けるため、基盤学科の専門展開科目、ならびに数学(情報処理)・物理による理論解析能力を身に付ける科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。</p> <p>C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できるように下記のとおり教育課程を編成しています。</p> <p>今後ますます必要となる国際性や、問題解決能力などの涵養を望む社会からの要請に対処すべく外国語によるコミュニケーション能力を身に付ける科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。さらに、語学力の習得を確認するために修了までに「総合英語力到達度試験」に合格することを義務付けています。</p> <p>文化の継承や健康の増進は持続可能な社会へ向けた共通課題であり、それらに対処するためのリベラルアーツ系科目を設けるとともに、現代社会・地域社会、環境問題を理解し対応するための文理融合科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。</p> <p>D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できるように下記のとおり教育課程を編成しています。</p> <p>地域企業などが抱える実務上の問題に対する解決法を体得するための方法として、長期のインターンシップを実施しています。また、実務上の問題として、いろいろな環境技術について検討できるよう環境関連科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。さらに、C. D. の学習目標に対して、特別研究分野に関連した技術者倫理/環境関連のテーマについてのレポート提出を義務付けています。</p>

E. チームプロジェクト等を遂行するために必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

与えられた制約の下で計画的に仕事を進める能力を身に付ける演習科目を設け、基盤学科の枠を超えた分野横断的なチームプロジェクトを展開しています。

日本語による論理的な記述、コミュニケーションに対処するためのリベラルアーツ系科目を設けるとともに、自主的・継続的に研究に取り組む特別研究を配置し、計画性、論理性、プレゼンテーションスキルを重視した総合的学習を展開しています。なお、特別研究の成果について学会等での外部発表を義務付けています。

F. 建設、環境、建築などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができるように下記のとおり教育課程を編成しています。

建設、環境、建築などのいくつかの工学知識を修得し、幅広い考察ができるよう、準学士課程において基盤として学んだ専門分野の授業科目群と専門分野以外の授業科目群を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

### 3 成績の評価方法に関する方針

科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。

- (1) 講義形式の授業科目においては、試験の得点や小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (2) 実技を伴う授業科目においては、ポートフォリオ、実技試験、筆記試験、課題などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (3) 創造工学演習などの実践的科目においては、課題、レポート、発表、ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- (4) インターンシップにおいては、研修態度、理解力、実行力、報告・相談、実習成果、報告書、発表などにより到達度を判定し、派遣企業等からの評価、巡回指導の評価、報告書の評価、プレゼンテーションの評価を総合して成績評価する。
- (5) 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。

### 4 成績の評価および単位認定基準

シラバスに基づき、100点法により60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。

なお成績はS・A・B・C・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。

ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。

- S (評点 90 点以上)
- A (評点 80 点以上～90 点未満)
- B (評点 70 点以上～80 点未満)
- C (評点 60 点以上～70 点未満)
- 不可 (評点 60 点未満)

### 入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/plan06.html>)

(概要)

#### 専攻科のアドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な専門知識と技術を教授して、先端技術にも対応できる創造的な技術開発能力を備え、幅広い分野で活躍できる研究開発型技術者の育成を目的としています。

#### 1 アドミッション・ポリシー

入学者として次のような学生を求めます。

- (1) 高等専門学校などにおいて工学の基礎を修得した人

- (2) 幅広い分野の工学知識について学習する意欲のある人
- (3) 国際的に通用する技術者として、社会貢献する意欲のある人

## 2 入学者選抜の実施方法

### (1) 推薦による選抜

入学者の選抜は、面接、出身学校長から提出された推薦書、調査書および TOEIC のスコアを総合判定して行います。

### (2) 学力検査による選抜

入学者の選抜は、学力検査、出身学校長から提出された調査書、面接を総合判定して行います。

学力検査は、数学及び専門科目について筆記試験を行い、英語については出願時に提出された、TOEIC のスコアにより評価します。

### (3) 社会人特別選抜

入学者の選抜は、面接（業務経験等の概要又は専門科目に関すること）、出身学校長から提出された調査書及び TOEIC のスコアを総合判定して行います。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ishikawa-net.ac.jp/outline/organization.html>

## ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

### a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
機械工学科	—	5人	3人	1人	0人	0人	9人
電気工学科	—	5人	2人	2人	1人	0人	10人
電子情報工学科	—	5人	3人	1人	2人	0人	11人
環境都市工学科	—	3人	3人	1人	1人	0人	8人
建築学科	—	4人	3人	2人	0人	0人	9人
一般教育科	—	11人	10人	2人	0人	0人	23人
電子機械工学専攻	—	18人	10人	3人	0人	0人	31人
環境建設工学専攻	—	12人	8人	1人	0人	0人	21人

### b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	34人	34人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）  
公表方法：国立高専研究情報ポータル  
<https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&affiliationId=658000000>

### c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	43人	107.5%	200人	213人	106.5%	若干人	1人
電気工学科	40人	43人	107.5%	200人	208人	104.0%	若干人	2人
電子情報工学科	40人	42人	105.0%	200人	214人	107.0%	若干人	1人
環境都市工学科	40人	42人	105.0%	200人	210人	105.0%	若干人	1人
建築学科	40人	42人	105.0%	200人	208人	104.0%	若干人	0人
合計	200人	212人	106.0%	1,000人	1,053人	105.3%	若干人	5人
電子機械工学 専攻	12人	16人	133.3%	24人	37人	154.2%	－人	－人
環境建設工学 専攻	8人	12人	150.0%	16人	21人	131.3%	－人	－人
合計	20人	28人	140.0%	40人	58人	145.0%	－人	－人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	39人 (100%)	15人 (38.5%)	22人 (56.4%)	2人 (5.1%)
電気工学科	41人 (100%)	17人 (41.5%)	23人 (56.1%)	1人 (2.4%)
電子情報工学科	41人 (100%)	18人 (43.9%)	22人 (53.7%)	1人 (2.4%)
環境都市工学科	42人 (100%)	15人 (35.7%)	27人 (64.3%)	0人 (0%)
建築学科	42人 (100%)	17人 (40.5%)	23人 (54.8%)	2人 (4.7%)
合計	205人 (100%)	82人 (40.0%)	117人 (57.1%)	6人 (2.9%)
電子機械工学 専攻	17人 (100%)	4人 (23.5%)	13人 (76.5%)	0人 (0%)
環境建設工学 専攻	10人 (100%)	0人 (0%)	9人 (90.0%)	1人 (10.0%)
合計	27人 (100%)	4人 (14.8%)	22人 (81.5%)	1人 (3.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				



c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)		
I 機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、環境都市工学科及び建築学科		
1 教育課程		
(1) 学年ごとの授業科目及び単位数は、学則に定めるところによる。		
(2) 各授業科目の単位数は、30 単位時間（1 単位時間は、標準 50 分）の履修を 1 単位として計算する。		
(3) 前記の(2)にかかわらず、本校が定める授業科目については、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、講義、演習、実験若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算することができる。		
(4) 前記の(3)により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は、60 単位を超えないものとする。		
(5) 前記の(3)にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。		
(6) 1 単位の授業科目を 30 単位時間の履修とする単位を履修単位という。		
(7) 1 単位の授業科目を 45 時間の学修とする単位を学修単位という。		
2 授業日数		
1 年間の授業を行う期間は、35 週にわたることを原則とする。		
II 専攻科（電子機械工学専攻及び環境建設工学専攻）		
1 授業科目		
(1) 専攻科の授業科目は、一般科目、専門共通科目及び専門展開科目からなっている。各授業科目には講義、演習、実験・実習の区分があり、1 単位とは教室内及び教室外を合わせた 4 5 時間の学修内容を指す。		
したがって、次表に示すように各自で必要な予習・復習を行い、教室内の授業について講義科目は 1 時間／週、演習科目は 2 時間／週、実験・実習科目は 3 時間／週で 1 5 週の授業をもって 1 単位になる。		
授業形態	教室での授業時間数	各自の予習・復習時間
講義科目	1 5 時間	3 0 時間
演習科目	3 0 時間	1 5 時間
実験・実習科目	4 5 時間	—

(2) 授業科目の詳細は教育課程表に、また授業科目の概要はシラバスにそれぞれ記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

I 機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、環境都市工学科及び建築学科

1 学業成績の評価

- (1) 学業成績の評価は、予め明示された評価方法に基づき100点法により行う。
- (2) 学業成績の評価は、次の算式による年間欠課時数が年間授業時数の4分の1を超えていない科目についてのみ行う。

$$\text{年間欠課時数} = A \times 3 / 4 + B$$

A：病気事故による長期欠席（通院を含めて3週間以上の療養を要する診断書が提出された者）、その他やむを得ない事由によると認められた欠課時数

B：Aの場合以外の欠課時数

2 学業成績の評語

- (1) 学業成績の評語は、S、A、B、C及び不可とする。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがある。その区分は次表のとおりとする。

第4学年から第5学年までの開講科目

評語	評 価
S	90点以上
A	80点以上 90点未満
B	70点以上 80点未満
C	60点以上 70点未満
不可	60点未満
合格 認定	60点以上

- (2) 学業成績の評価は第4学年から第5学年までの開講科目は60点以上の科目について単位を認定する。

3 卒業の基準

- (1) 各科目の年間授業時間数の4分の3以上出席していること。  
なお、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和される。
- (2) 最終学年までの修得すべき科目の単位を修得していること。
- (3) 卒業研究の評価が合格であること。
- (4) 学校行事への出席が良好であること。  
上記のすべての条件を満たしていれば、卒業することができる。  
ただし、上記の(2)に掲げる条件を満たさない学生であっても、次に掲げる条件を全て満たせば、単位追認試験を受験することができ、これに合格したときに卒業が認められることがある。
  - ①学業成績において30点未満の科目がないこと。
  - ②累積未修得科目が3科目以内であること。

II 専攻科

1 学業成績の評価

- (1) 学業成績の評価は、予め明示された評価方法に基づき100点法により行う。
- (2) 学業成績の評価は、次の算式による欠課時数が授業時数の4分の1を超えていない

科目についてのみ行う。

$$\text{欠課時数} = A \times 3 / 4 + B$$

A：病気事故による長期欠席（通院を含めて3週間以上の療養を要する診断書が提出された者）、その他やむを得ない事由によると認められた欠課時数

B：Aの場合以外の欠課時数

## 2 学業成績の評語

(1) 学業成績の評語は、S、A、B、C及び不可とする。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがある。その区分は、次表のとおりとする。

評語	評 価
S	90 点以上
A	80 点以上 90 点未満
B	70 点以上 80 点未満
C	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満
合格 認定	60 点以上

(2) 前記の(1)により 60 点以上の科目について単位を認定する。

## 3 修了要件

### (1) 専攻科修了要件

各授業科目は単位制で、専攻科修了には2年以上在学し（在学年数は4年を限度とする。）、各専攻開設のすべての必修科目及び所定の選択科目の単位数を含め、下表のように62単位以上を修得する必要がある。

さらに、申告した創造工学プログラムのコースの修了に必要な要件を満たすように、単位を修得することも必要である。

なお、1年次の修得単位数が30単位に満たない学生でも2年次となり、当該年次配当科目を履修できるが、2年次配当の創造工学演習Ⅱの履修はできないので、当該年度の修了見込みとはならない。

また、創造工学プログラム複合工学修得コースにおいて、1年次に創造工学プログラムの学習・教育目標C(2)の総合的評価（総合英語力到達度試験に合格すること。ただし、TOEIC400点相当、英検2級、技術英検2級取得のいずれかをもって代えることができる。）を満たさない場合も、2年次配当の創造工学演習Ⅱを履修できない。

科目区分	要修得単位数	備 考
一般科目	10 単位以上	必修 10 単位
専門共通科目	17 単位以上	必修 15 単位
専門展開科目	35 単位以上	必修 31 単位
合 計	62 単位以上	(うち1年次に30単位以上)

### (2) 学会等外部発表

専攻科を修了するには、学会等の外部発表が必要である。なお、特別研究Ⅱの発表会は本校の技術振興交流会企業等へ公開しており、そこでの発表も外部発表とみなす。

### (3) 創造工学プログラム (<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/jabee/program.html> 参照)

創造工学プログラムを修了するには、所定の単位を修得しコース別達成度評価項目を満足しなければならない。複合工学修得コースにおいては、総合英語力到達度試験の合格（TOEIC400点相当、実用英語技能検定2級、技術英語能力検定3級の取得のいずれかをもって代えることが可能）や研究に関して外部発表を行う必要がある。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気工学科	167 単位	有・無	単位
	電子情報工学科	167 単位	有・無	単位
	環境都市工学科	167 単位	有・無	単位
	建築学科	167 単位	有・無	単位
	電子機械工学専攻	62 単位	有・無	単位
	環境建設工学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	59,000 円～ 275,400 円	その他の内訳 教科書・教材費等 50,000 円 学生会費 9,000 円 研修旅行積立金 160,000 円 寄宿料 8,400 円～9,600 円 寮費 43,600 円 寮生会費 3,200 円
	電気工学科				
	電子情報工学科				
	環境都市工学科				
	建築学科				
	電子機械工学専攻	234,600 円	84,600 円	174,800 円	その他の内訳 教科書代 11,000 円 教材費 6,480 円
	環境建設工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

・学習状況の把握と支援体制  
学生の学習状況は、各科目の授業担当者が随時把握するとともに、必要に応じて学級担任や学年会、専門学科とも連絡・連携をとりながら情報の共有を図っている。できるだけ成績不振や欠席しがちにならないよう常にキメの細かい指導に努めている。これらの状況は、年2回行われる「校長による学科ヒアリング」により、問題を抱える学生を早期に把握し、必要に応じて関係部署、場合によっては保健室・相談室・カウンセラーなどとも連携して、問題の早期対応・解決につなげている。

・学習支援に関する学生のニーズを汲み上げる制度  
全教員が週1回1時間以上のオフィスアワーを設定しており、学生はこれを利用して授業内容の理解を深め、資格または検定試験に関する情報やその対策についてのアドバイスを受け

ている。また、学生に対してオフィスアワーを利用してわからなかった点や疑問点を教員に尋ねるよう指導し、教員の側にもその機会を学生の学習支援のニーズを把握するよう促している。本科における保護者への成績報告や担任との面談も学生の学習支援のニーズ把握の有効な手段となっている。さらに年に2回行われている授業評価アンケートによって、授業に対する様々なニーズを直接知ることができ、学生からのより具体的な意見を吸い上げるため、授業評価アンケートに自由記述欄を設けている。

また、学生のみならず教職員全般の意見を集めるためにオピニオン・ボックスが設置されている。

・資格試験や検定試験に対する支援体制とその活動状況

学年ごとに段階的に TOEIC IP の団体受験を行っており、希望者には個別指導も行っている。また図書館に TOEIC に関する補助教材を配備し、学習を支援している。

資格試験に関しては、各学科がその資格の種類・難易に応じた支援体制をとっている。たとえば電気工事士技能試験に関しては、ガイダンスを行っているほか、実技指導も実施している。建築士資格については、受験指導の一環として授業の教育内容を改善して支援に努めている。

・外国留学のための支援体制

留学が学年修了または卒業に可能な限り支障がないように配慮している。また、中国杭州職業技術学院、中国大連職業技術学院、中国大連工業大学、台湾明新科技大学、ベトナムハノイ建設大学及び台湾国立嘉義大学理工学院との学術交流協定締結により学生の海外研修先の選択肢を増やしている。また、トビタテ留学 JAPAN などの制度も利用し、留学に向けて短期の海外研修体験を奨励している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

・企業見学

1年生から様々な企業を訪問し、会社見学を行っている。自分の学んでいることが社会でどんな風に活かされているのか、自分はどんな事ができるのかを知ることができる。

・卒業生との懇談

社会で活躍している卒業生が本校に訪れ、学生に仕事内容を紹介する講演会や懇談会を実施している。在校生は卒業生の活躍を直接本人から聞くことができる。

・インターンシップ

4年次に夏季休業を利用して、約1週間～2週間の企業実習（インターンシップ）を行っている。受入企業には本校の卒業生も多く、活躍ぶりを間近で見ることができる。この経験を通して「働く」ことを学ぶ。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

・学生相談室

学生相談室は、教員の室員数7名、看護師2名、あわせて9名体制で行っている。月曜日、水曜日及び金曜日の放課後に（月8～10回程度）4名の学外カウンセラーが来校し、学生への面談や教職員、保護者等の相談を受けている。必要な場合は、医療機関への受診を勧めることもある。各学科の相談室員、保健室ではカウンセリング日以外でも随時学生の相談に応じられるよう、きめ細かなメンタルケアを心掛けている。

また、2名のソーシャルワーカーが水曜日及び金曜日に来校し、学生が学校生活の中で抱えているいろいろな問題を学生相談室及び保健室と連携し解決の糸口を見出すための面談を行っている。

年度初めの担任による全員面談実施、出席管理システムによる出席状況の把握と共有などにより学生の状況把握に努めている。これらにより学生の気になる情報を把握した際には相談室と情報共有し、できる限り早く学生の支援に当たれるような体制をとっている。学校生活に関する全学生アンケートを実施し、そこからの情報も活用し、学生のメンタルケアにあたっている。

さらに、学生相談室の利用促進を目的とした啓蒙のために、入学時に利用案内リーフレットを新入生及び保護者に配付し、活動報告を校内広報誌へ掲載している。また、ホームページ

の内容を適宜更新している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。